

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		常に理念を理解し、ミーティングやカンファレンスでは職員全体で話し合い、具体的なケアについて意思の統一を図っていく。
2 理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		ミーティングなどで日々のケアを振り返り、理念が反映されているか職員全体で確認していく。
3 家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		地域密着型サービスの意義を職員全体で確認している。地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性について、ご家族に対し入居時に説明している。地域の方へは運営推進会議や広報誌でPRしているが、もっと理解していただけるような取り組みも必要である。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。		町内会長、老人クラブ、民生委員とのコミュニケーションはとれている。近所の散歩や買い物、病院で会った時などこちらから挨拶するようにしている。
5 地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		町内会のお祭りに参加している。近隣で行われるお祭りやイベントにも参加している。
6 事業者の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		今後も町内のお祭りに参加していく。近隣のお祭りやイベントへも参加していく。今後は地域の幼稚園や小学校の行事にも参加できるように働きかけていきたい。また、地域で行われている活動内容をもっと知るように努めていきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献		当事業所として何ができるか、法人と共に協力していく。今年度から11/11介護の日のイベントとして地域の方へ向けたイベントを行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	自己評価を実施することで、ミーティングなどで具体的に改善点を話し合っている。	職員全体で評価の結果等を踏まえて、改善目標を立案し実践していく。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議を通して地域の方との交流の機会を企画したりしている。外部評価の報告などを行い事業所の状況を理解して頂いている。	家族や地域の方々の生の声を聞き、更にサービスの向上に繋げていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	機会があれば代表者が直接市役所担当職員の所に出向き、事業所の報告や指示を頂いている。また、のぼりべつケアマネ連絡会にも参加し担当職員との連携を図っている。代表者は現在同連絡会幹事を務めている。	市町村からの意見や指導を頂きながら、積極的に事業所の実情の報告や相談を行い連携を密にしていきたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	外部研修の研修を活用したり、研修の内容をスタッフに伝達する機会を設けている。	今後、制度の活用のある利用者のため研修会の参加や定期的に勉強会を実施したい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	日頃からミーティングやカンファレンスで話し合い、不適切なケアについて意識づけを行っている。	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	代表者、又は管理者から重要事項、契約書等の説明を行い、十分理解、納得して頂いている。	重要事項や契約書の内容を前スタッフが理解できるように努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている。	目安箱の設置。 本人、家族からの意見や不満などを受け付ける体制はあるが、常に話しやすい雰囲気気に留意していきたい。本人、家族から頂いた意見や苦情は代表者に伝え、対応するようにしている。また、スタッフでのミーティングを行い改善策を検討している。		話しやすい雰囲気を作るように努め、常に対話を心がける。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に管理者、又はユニットスタッフから報告している。また状態に変化がある時には都度連絡をしている。 広報誌とは別に家族通信(内容は個別で毎月の様子を写真付き)を発行している。金銭管理については毎月、出納帳と領収書、残金を報告、確認して頂いている。職員の異動については広報誌、家族通信で紹介、面会時に改めて代表者、または管理者より紹介している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている。	面会時等、声をかけ何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。又、意見箱の設置や苦情受付窓口の設置と掲示、外部の苦情相談窓口についても掲示している。出された意見や苦情については直ぐにミーティングの議題とし話し合い改善するようにしている。		現実的には殆ど苦情が出されることがないので、もっと何でも言ってもらえるような雰囲気づくりとコミュニケーションを心がけていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングで職員の意見、要望を聞くと共にユニットの管理者が都度、相談に乗っている。		管理者には相談できても、代表者には相談できないこともある。代表者は定期的な面談などでスタッフの状況など理解できるように努める。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	主に管理者が調整を行っているが、状況によってはスタッフが協力し調整している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	全スタッフがどちらのユニットでもケアに入れるよう、常に情報交換を行っている。また、年に数回は両ユニット同時開催のイベントを行っている。		異動などによりスタッフが変わったときには、まわりのスタッフも協力してできるだけ早く馴染めるように協力していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内では月1～2回程度の研修が行われており、自由参加できる。外部の研修についても参加スタッフを参加させるようにしている。研修に参加できなかったスタッフのために研修報告会を実施している。代表者は上記扱いとは別に研修会の情報をスタッフに流してくれ、参加を勧めてくれている。</p>	<p>スタッフの質の向上のため今後も研修会の参加や全スタッフが共有できるよう研修報告会を開催していく。新人職員教育体制を構築していきたい。緊急時の対応など定期的な研修会の開催を行いたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>広域連絡会の研修会に参加し他事業所との交流や情報交換を行っている。</p>	<p>他事業所との交流や情報交換を図り、自事業所全体の向上に繋げていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>些細なことでも話してもらえる関係づくりを心がけている。</p>	<p>なんでも話し合える雰囲気づくりを心がけていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>法人の全職員が人事考課を行いスタッフ全員が各自目標を設定している。各スタッフが成果物を提出し評価を受けている。また、代表者から助言やアドバイスを受けている。</p>	<p>勉強会の開催などの取組みを行っていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に可能であれば本人と一緒に見学に来ていただいている。出来るだけ本人に会い心身の状態や本人の思いに向き合い、不安を軽減できるように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に家族の話を受け止め、理解し事業所としてどのような対応ができるか、事前に話し合うように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人、家族の状況や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。場合によってはケアマネジャーや他の事業所のサービスに繋げるなどの対応をしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には可能なかぎり事業所の見学に来て頂いている。必要時には自宅訪問も行き馴染みの関係の構築等に努めている。入居してからは家族と相談しながら外出の機会を設けたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	常に入居者と同じ目線である。一人ひとりの状況に応じ必要以上の介助を行わず、家事や畑仕事などスタッフと一緒にいきいきと取り組めるように工夫している。いつも入居者から学ぶといった姿勢を大事にしている。		お世話している人、お世話されている人といった、感情や意識を持たずいつも自然に関わることができるようにしていきたい。
28 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	誕生日会、クリスマス等イベントには参加してもらっている。また、家族からピアノ演奏や散髪ボランティアがあり、積極的に他の入居者に関わって頂いている。		家族の思いを理解し、情報共有に努め、本人と一緒に支えていく関係を築いていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係性の理解に努めながら、面会時等に共通の時間を持って頂けるように努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前の友人と電話をかけ合ったり、外泊も自由に行える。馴染みの美容室など継続して利用していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人一人の状況を把握し意識した見守り、介入を行っている。個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う人同士が過ごせる場面づくりをするなど、入居者同士の関係が良好にいくように、スタッフが調整役になっている。		まだまだ入居者を孤立させてしまってる場面が見受けられるので、視野を広く持ち支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスの利用が終了した場合でも家族の相談に乗っている。入居者に関しては入院による契約終了が殆どであるが、スタッフが顔を見せたり、家族に状況を確認したりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中から、把握に努めている。意思疎通が困難な方には、家族から情報を頂いている。		常に本人の思いを意識し希望や意向をスタッフ全員で共有し検討していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の会話や家族から情報を頂いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	記録に残し一人ひとりの状況など把握できるように努めている。定期的なアセスメントシートを利用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的な見直し、必要時にケアプランの見直しを行っている。ケアプランには入居者、家族から意見を聴き反映させている。		担当者会議に家族の出席が得られないため、必ず会議の前に介護に対する意向や意見を伺っている。今後も入居者中心の視点に立ち、生きたケアプランの作成と実施に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月の評価、3ヶ月に1回のモニタリングを実施し必要に応じて見直しを行い、スタッフミーティングや家族と話し合い、状況の変化に応じたケアプランの見直しを行っている。		スタッフが細かな変化に気づき、対応できるように日頃から意見を出し合い、ケアプランの作成に繋げていく。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は介護記録、申し送りに記載し、全スタッフが共有できるようにしている。また、新たな気づきなどはアセスメントシートに記載し、ケアプランの情報源となっている。		スタッフ個々の気づきやアイデア等がケアプランに生きる工夫をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて買物、外出、外泊、受診の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの訪問や町内会の方々との交流を行っている。		今後もボランティアの訪問を受け入れていく。また、町内会の方々との交流はまだ始まったばかりなので、積極的に働き掛けていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	希望に応じて対応していきたいが、現状ではない。		本人や家族の希望に応じて対応していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	同一法人に地域包括支援センターがあり、必要性がある場合等相談、助言をもらえる体制ができている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的にはかかりつけ医の受診継続を勧めているが、殆ど運営法人の病院に定期受診している。 運営法人の医療法人から、週1回看護師の定期的な訪問があり入居者の健康管理を行い、主治医に報告している。また、24時間の連絡体制によりいつでも対応可能となっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	運営法人が精神科でもあり、専門医の定期的な診察や相談ができる環境にある。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回定期的な訪問があり入居者の健康管理を行っている。 日頃の様子から心配なことも気軽に相談している。 入居者とも馴染み関係ができており、訪問を楽しみにしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	担当医師、ソーシャルワーカー、家族と状況の確認や相談しながら進めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合における指針の整備を行い、事業所における看取りについてご家族に説明している。		家族に対する繰り返しの説明により事業所における看取りについて理解を求めている。また、スタッフ個々の教育についても事業所内での勉強会や研修を利用しスキルを上げていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重化した場合における指針があり、事業所における看取りについての説明は行っているが、実際には未経験であり不安が大きい。		今後に備え常に医療スタッフとの連携やスタッフ間の意思の統一等、多くの話し合いの場を設けるよう検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人、家族と十分に関わりながら受け入れを行っている。受入後も都度、本人の状況に合わせた対応を行っている。家族に対しても都度報告し協力して頂いている。入院や別の施設、事業所に移る場合は必ず情報提供を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	声かけや対応には特に注意し、尊厳の保持、プライドに留意している。個人情報については同意書を交わし使用の範囲を限定している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の表情や言動から何を訴えているのかを考え、自己決定できるような対応や納得できる声かけや対応に努めている。		自らの思いを言葉や行動で表現できる関係づくりに、常に努めていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に事業所やスタッフの都合とならないように心がけ、一人ひとりのペースに合わせた生活を送れるように心がけているが、スタッフの数やその日の状況により、ゆっくり話を聞けない時があるように思う。		常に入居者に合わせた対応を行い、ゆっくり話を聞いたりできるように努めていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人が希望する美容室へスタッフと一緒に出かけている。		日常的な身だしなみにもっと目を向けていきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を決める際にも入居者と一緒に希望を聞きながら行っている。また、食事の準備や後片付けを一緒に行うようにしている。好き嫌いにもできるだけ対応するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好みに応じ、量や栄養など健康面に注意しながら提供している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	毎日の様子を見ながら排せつパターンを把握し、排せつ面で不快とならないようにケアしている。		排泄パターンや一人ひとりのサインを全スタッフが把握できるように、日々の記録や情報交換を徹底していく。失敗してしまった時や、トイレ誘導の声掛け等の工夫を行い、気持ちよく排泄できるような配慮を行っていく。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の希望があるときには、その都度対応している。また、希望がない時には声かけを行い希望を伺っている。拒否のある方には声かけの工夫を行い気持ちよく入浴できるように配慮している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間があるが、眠れない人がいれば話をしたり、安心して眠れるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの力を発揮できるように出来そうな仕事は頼み、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。併設の病院や介護老人保健施設の行事などに参加し気分転換や昔の友達に会える機会を設けている。		平穏な毎日の中に楽しみや役割、そして刺激のある生活が送れるように支援していきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分の手元に置いている方もいるが、殆ど事業所で管理している状況。然し、買物や外出時には、本人にお金を渡し自由に買い物ができるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の状況に応じてだが、ほぼ毎日、天気の良い日は散歩やドライブに出かけている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族の協力を得ながらテーマパークの見学や果物狩りに出かけている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望や状況に配慮し、家族に電話をかけたりしている。		家族に年賀状を出したり、本人の希望に応じ電話や手紙を出せるように支援していきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも自由に面会できる環境にある。面会時はゆっくり過ごして頂けるよう、お茶を出し場所のセッティングを行うなどしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の定義はスタッフ全員が理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる。		身体拘束の定義についてスタッフ全員が理解できているか、常に確認しあい拘束しないケアに取り組んでいく。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯のため施錠しているが、日中は開放している。入居者が家に帰ると外に出ていくことがあるが、特にその行為を問題視せず寄り添った対応を心がけている。		家に帰りたいと外へ出る方もいるので常にスタッフ同士での確認、伝達を大事にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に入居者の居場所等スタッフ間で確認している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとり状態に応じ対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状況に合わせ、注意すべき点等、ミーティングで話し合っている。ヒヤリハットや事故報告書を作成しスタッフが目を通すようにしている。		ヒヤリハット、事故報告書を作成しスタッフ全員が目を通し、今後の事故防止に繋げるための分析、検討を行っていききたい。どのような状況でも前スタッフが対応できるように定期的に訓練を行っていききたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルにて対応できるようになっているが、定期的な訓練は行っていない。		急変時の対応等、発見から初期対応、連絡訓練、病院への搬送まで一連の訓練を実施していく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を年2回行い、避難誘導、連絡訓練、消火器の取扱い等訓練を行っている。		定期的に地域の方々との訓練を継続していききたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	現在の状況や今後起こり得るリスクについて、面会時等に家族に説明し、理解と協力を得ながら対応している。		リスク管理についてはしっかりと体制整備をしていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調の変化、異変に気付けるように常にスタッフで情報交換を行い早期の対応に繋げるように努めている。些細なことでも協力病院の担当看護師に相談し、必要時は即受診している。		家族への連絡を密に行い、家族と協働したケアに繋がっていききたい。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	用法や用量を理解し、スタッフが内服の支援をしている。		服薬の目的や副作用の理解不足があるので把握に努める。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄パターンをチェックし、便秘の方には乳製品等を提供したり、で十分な水分補給と食事の工夫を行っている。		適度な運動や散歩等をもっと取り組んでいきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、実施している。一人ひとりの状態に応じ介助、声掛けを行っている。		併設歯科口腔外科・歯科があるので指導を受ける。胆振保健福祉事務所主催の口腔ケアの研修に参加する。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量、食事は記録に残しスタッフが把握している。一人ひとりに状態に合わせた食事を提供している。水分も1,000CC/1日を目標に摂取できるように心がけている。摂取量が少ない方には他の物で補えるように努めている。状況に応じて管理栄養士に相談し指導を受けている。		定期的に管理栄養士に献立表をチェックしてもらう。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防、対応マニュアルに目を通し把握に努めている。日頃からのうがい、手洗いの励行や職員の体調管理、家族等、面会者への対応等外からも持ち込まないように徹底している。		感染予防に対する意識をさせ、予防に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理用具、まな板、包丁、食器類等の除菌を徹底し食材は賞味期限、消費期限を守り、前日、当日に配達、購入している。保管は冷蔵庫、冷凍庫使用している。		常に感染症に対する意識をさせ、予防に努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	階段に手すりの設置、スロープあり、季節に応じ玄関先にプランターを置き花を植えている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節の花や、掲示物を工夫している。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ソファの配置やテーブルの位置などその時に応じ工夫し、過ごしやすい環境づくりに努めている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	最小限の家具は事業所で用意しているが、本人、家族と相談し家から思い入れのある家具等を持ってきてもらっている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	温度計、湿度計を利用し温度調整、必要に応じて窓の開閉を行い換気をしている。空気清浄機、加湿器の設置、部屋に濡れたタオルを干したりし、乾燥を防いでいる。		室内の乾燥や温度に気を配り、感染症の予防等に努めていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下の両脇に手すり、トイレ、浴室内にも手すりを設置し安全面に配慮している。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの状況に応じ、できることはして頂き、本人に喜びを感じてもらえるように対応している。</p>		<p>一人ひとりの能力やその日の状態を理解し対応していく。</p>
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭のテラスを利用し日光浴や食事をしている。庭では野菜などを作っている。天気の良い日には一緒に洗濯ものを干している。</p>		<p>入居者が中心となり菜園の管理などができるように支援していきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	利用者の2 / 3くらい
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	利用者の1 / 3くらい
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	利用者の2 / 3くらい
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	利用者の2 / 3くらい
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	家族の1 / 3くらい

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている たまに
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 少しずつ増えている
98	職員は、生き生きと働いている 職員の2 / 3くらいが
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 利用者の1 / 3くらいが
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 家族等の1 / 3くらいが

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
一人ひとりの状況に応じ、関わり方や対応を変えながら柔軟なケアを行っています。
いつまでもその人らしさを持ち続けられるよう、管理者が中心となりスタッフが努力しています。